

2026年6月7日（日）主日朝礼拝説教

『霊から生まれる』 井上隆晶牧師

I コリント 15 章 50～58 節、ヨハネ福音書 3 章 1～9 節

①【どうしたらあなたのようにになれるのですか】

ファリサイ派に属し、国会議員という身分の高い高齡のニコデモという人が、ある夜イエス様のもとにやってきました。ファリサイ派というのは律法の教えを忠実に守ろうとするユダヤ教のグループです。彼はこういいました。「ラビ（先生という意味）、私どもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、誰も行うことはできないからです。」（2 節）

ニコデモは若い時から歳をとるまで長い間、律法を一生懸命守ってきたのに、力も確信もなく、しるしを行う事も出来ませんでした。しかしイエス様が行うしるしを見た時に、イエス様が自分たちとはまったく違う信仰をする方であり、神のもとから来られた方であるに違いないと思ったのです。それほどイエス様に驚いたという事でしょう。これはニコデモだけではありません。

イエス様が山の上で教えを語った後「イエスがこれらの言葉を語り終えられると、群衆はその教えに非常に驚いた。彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。」（マタイ 7：28）と書かれています。また悪霊を追い出した時、「人々は皆驚いて、論じ合った。これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、言うことを聞く。」（マルコ 1：27）と言いました。ナザレでも人々は言いました。「多くの人はそのを聞いて驚いた。この人はこのようなことをどこから得たのだろう。この人が授かった知恵と、その手で行われるこのような奇跡はいったい何か。」（マルコ 6：2）

本当に律法を守った者でなければ、律法の限界、人間の力の限界に気がつきません。ルターもパウロも皆、まじめに戒めを守ったのです。だから律法では人は変わらない、人は救われないということが分かったのです。そこでニコデモは「どうしたらあなたのようにになれるのか」を知りたくてイエス様の所に行きました。しかしイエス様と親しくする者は社会から追放されることになっていましたから、人目を避けて夜やって来たのです。

このように見てゆくとキリスト教信仰には二種類のタイプがあるのが分かります。人間の力によって信仰する人と、神の力によって信仰する人です。ファリサイ派の人の信仰というのは、人間の力によって信仰するものでした。彼らが聖書を教えても確信や権威がないので人々の中に入らず、人を変えることができないのです。一方イエス様は違いました。イエス様は神の力によって教え、悪霊を追い出し、病を癒したのです。イエス様は本当に神を知っていたから権威と力があるのです。本当に神を知っている人が語る言葉と、神についての知識だけを語る人と

では天と地の差があります。私が求めるのは神の力で信仰することです。

②【新しく生まれる＝新生とは】

それに対してイエス様は「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」(3節)と言われます。「神の国を見る」とは、神の力を見る(体験する)ということです。しかし彼は新しく生まれるという意味が分かりません。「年を取った者がどうして生まれることができますよう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか」と答えます。するとイエス様は「はっきり言うておく。誰でも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」(5節)と言い換えられました。「水と霊とによって生まれる」というのは洗礼を意味しています。霊とは聖霊のことです。水と聖霊によって新しく生まれなければ、神の力を見れないと言われたのです。

なぜイエス様は「水と霊」によってと言われたのでしょうか。「水」は「死」を意味し、「聖霊」は「命」を意味します。旧約では水は裁きの道具でした。ノアの洪水も、紅海を渡ることも死を意味します。土の中に葬ることができないので、水の中に古い自分を葬るのです。そうやって自分というものに死ななければ聖霊は働けないのです。イエス様はニコデモに「あなたは古い自分を葬らなければ、新しい人にはなれず、神の力も体験できない」と言ったのです。よくキリスト教を心を磨く宗教だとか倫理道德と思っている人がいますが、まったくの誤解です。磨くのではなく壊すのです。死なないで神の栄光を受けられないかと思っているのが大きな間違いです。

普通、歳を取れば気力もなくなり、いろんなことを諦めます。それなのにこのニコデモという老人は「イエス様のようにになりたい」と思った、ということに私は驚きを覚えます。彼の中にあつた「聖なる憧れ」は、歳をとっても消えなかつたということです。ニコデモは私たちに勇気を与えます。人はどんなに歳を取っても変わることが出来る可能性があるという事なのです。

●ニコデモを見ると二人の老人を思い出します。一人は大阪正教会の信徒でKさんという人です。私が知り合った時には75歳以上でしたが、彼は神学を学ぶために、阿倍野にある大阪基督教短期大学新学科に入学し、高槻から毎日、朝早く家を出て車で時速25キロくらいで通いました。ギリシャ語を勉強して論文を書き、正教会の祈祷書を製本して私に分けてくれました。もう一人は扇町教会の信徒でSさんという人です。彼は80歳を超えていましたが、古代教会の教父たちの説教を英語から日本語に翻訳して私に分けてくれました。二人とも探求心があり、向上心がありました。私の人生で出会ったすばらしい信仰者たちでした。

③【風は思いのままに吹く】

イエス様はニコデモに「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおり

である。」(8節)と言われました。ここでイエス様は聖霊のことを風と表現しているのです。風は自由に吹き、去ってゆきます。風を見ることはできません。しかし風は必ずそれを受けた人や物に変化を与えます。聖霊も同じです。聖霊は目には見えませんが、それを受けた人は別人のように変わります。聖霊が吹くと、古い人の中に新しい人が生まれるのです。それが「**肉から生まれる者は肉であり、霊から生まれる者は霊である**」(3:6)という意味です。そこで一人の人間の中に、肉によって生まれた自然のひと、聖霊によって生まれた神的(霊的)な人の二つが同時に存在することになります。自然の人は自分の力によって生きようとしますが、神的な人は神によって生きようとします。この外なる肉のひとをたえず殺し、内なる霊のひとを生かすのです。この内なる霊のひとに聖霊が満ちると、ものすごい神の力を発揮するのです。

●昔、心なごむ会であるお母さんのお証しを聞きました。その方の息子さんは発達障害でシンナー依存です。友達の気を引くために父親の財布からお金を取って物を買って、皆に配っていました。叱ると家を飛び出し、家族が探し回るということを繰り返していました。14歳からシンナーを吸うようになり、30歳まで吸っていました。吸わないのは病院に入院している時だけでした。母親は本人に黙って夜中にこっそりとシンナーの一斗缶を草むらに捨てに行くのですが、次の日にはまた一斗缶が部屋にあるのです。塗料屋から盗んでくるのです。タクシーに乗って夜中に帰って来ます。物音で近所の家の窓が開きます。夜中に大声でわめき、近所迷惑になるから母親はタクシー代を払いに行きました。病院に行けば「お母さん、まだそんなことをしてるんですか。」と怒られます。母親は自助グループに休まずに通いました。息子さんは10年間ものすごい数の精神病院に入院し、病院では依存症は治らないというのに気づきます。彼は泣くだけ泣いた時、「生きていていいんだよ」という不思議な声を聞きます。彼は「俺は生かされているんだ」という思いに変わりました。それまでは「俺だけがどうしてこんな目に遭うんだ」と文句をいって生きてきましたが、その時から彼は変わりました。本人を見た時、母親は一目で息子が変わったことがわかりました。そしてお母さんも変わりました。「私もあの人大切な人。私も大切。以前は上から目線で息子を見ていた。でもあの方は、あの人なりにいい所がいっぱいあるのに気がついた。息子のことはもう口出ししません。あの方はあの人、自分は自分だと思えば腹が立たなくなった。今まで苦しかったが、このことに気づくためだった。」最後にお母さんは面白いことを言われました。「悲しい悲しいと思っている人は不幸になります。感謝しないとイケません。朝、目が覚めたら、上に住んではる方(神様)に祈って、一日精一杯生きる。夜は、また感謝しますと祈る。上にいる人は見てまっせ。」何と見事に神に出会い、変わったことでしょう。息子さんは今、依存症の回復のために若者のグループを立ち上げ、世界にまで出かけて活動しています。

信仰はいつも自分が「空であること」「ゼロであること」が必要なのです。自分の力がゼロになると、神の力が入ってくるのです。その時、聖霊は自由に吹いて、私を用いて神の業を行って下さるでしょう。